

科目	専攻科特別実習 (Practical Training for Advanced Course)		
担当教員	小泉 拓也 准教授		
対象学年等	応用化学専攻・1年・前期・選択・2単位		
学習・教育目標	C2(50%), D1(50%)		
授業の概要と方針	企業またはその他の受け入れ機関で業務の一部を実際に経験することによって、技術者に必要な人間性を養うとともに、工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C2】実習機関の業務内容を理解し、実習先での具体的な到達目標を達成する。		実習機関の業務内容に対する理解度および実習先での具体的な到達目標の達成度を実習証明書と実習報告書で評価する。
2	【D1】実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。		実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深めたことを実習報告書と実習報告会で評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	実習証明書,実習報告書および実習報告会の内容により単位を認定する。		
テキスト			
参考書			
関連科目	全教科		
履修上の注意事項	実習機関に受け入れを依頼して実施する教科なので、責任感を持って健康・安全管理に留意して取り組むこと。		

授業計画(専攻科特別実習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

備考 中間試験および定期試験は実施しない。実習証明書や実習報告書,実習報告会等で総合的に評価し,認定する。通算3週間以上(40時間/週×3週間)=120時間以上の実習を行うこと。